

シュローダー男爵

ロスチャイルド家やハンブロー家と並び称せられるほど古くからマーチャント・バンカーとして活動してきた名門「**シュローダー家**」は、ドイツではハンブルクやケルンなどに、イギリスではロンドンに拠点を置き、鉄道から砂糖、ビールに至るまで大々的な商業活動を行ってきた。当時は、ロスチャイルドを除けばロンドンでは1、2を争う商会として記録されているほど大きな勢力を持っていた。この「シュローダー家」出身の**クルト・フォン・シュローダー男爵**は、ロスチャイルド金融勢力の一つである「J・ヘンリー・シュローダー銀行」の創立者のひとりであった。ドイツ・ケルンには自分の銀行「J・H・シュタイン銀行」を開いていた。

シュローダー男爵は、ヒトラーに心酔し、ナチスに入党して、ゲシュタポの高級将校になり、私設の突撃隊員を持っていた。1931年12月に、シュローダー男爵が中心になって、ヒトラーに定期的に寄付することを約束したドイツの著名な実業家12人をメンバーにした秘密友愛組織「フロイデンスクライスS」（またの名をケプラー・クライス）が結成された。この組織は後に、SS長官ヒムラーを主力メンバーとして迎え入れ、1934年以降は「ヒムラー友の会」と呼ばれるようになる。

「ヒムラー友の会」は、親衛隊を介してナチ党指導部と財界首脳が直接交流する機会を提供するとともに、シュローダー男爵の銀行に設けられた秘密口座を通じて、財界の資金を親衛隊へ流すパイプとしても機能していた。

1933年1月30日にヒトラーが政権を獲得すると、**シュローダー男爵**は「**B I S（国際決済銀行）**」のドイツ代表に指名された。シュローダー男爵はドイツ鉄鋼王テュッセン男爵と共に、ナチスの財政支援を行い、シュローダー男爵の銀行「**J・H・シュタイン銀行**」は、のちにヒトラーの個人取り引き銀行になった。

（「[ヘブライの館2](#)」）